



# 教育ゆりほんじょう

第 13 号  
令和6年10月23日  
由利本荘市教育委員会  
学 校 教 育 課  
教 育 支 援 セ ン タ ー

## 第52回科学作品展を終えて

由利本荘市児童生徒科学作品展を9月14日（土）、15日（日）に、カダーレギャラリーにて開催しました。今年で52回目となるこの作品展は、夏休みの自由研究や授業で制作した作品などを展示し、児童生徒の自然や科学への興味・関心を高め、観察する力や探究する力、自然に親しもうとする意欲を育成することをねらいとしています。

今年は、市内13小学校から259作品、3つの中学校から22作品の合計281作品の出品がありました。昨年度より20作品ほど出品数が減ったものの、夏休みの長い期間をかけて取り組んだり、同じ課題について毎年継続して研究を発展させたりした質の高い作品が多く見られました。

9月12日（木）には、市内小・中学校の理科主任等の先生方で審査を行い、30作品を優秀賞、59作品を優良賞に選出し、受賞者には学校を通じて賞状を贈っています。これまでのがんばりを評価するとともに、今後さらに、自然や科学への興味・関心を高め、自然に親しもうとする意欲の向上につながってほしいと思っています。また、今年度は2日間で約1000人の来場者がありました。児童生徒本人や保護者だけでなく、地域の方々にも多くご来場いただき、児童生徒や科学への関心の高さがうかがえました。

今回出品された作品の内訳は、観察・実験に関わるものが179、観察スケッチ49、標本10、理科工作16、生活科関連27でした。どの内容の作品も自分が調べたこと、取り組んだことを記録するだけでなく、自分の思いが伝わるように工夫したり、見やすくなるように表現したりするなど、ていねいな作品が多くありました。また、作品の多くを占める観察・実験に関わる作品については、身の回りの自然や日常生活から見つけた課題を解決したいという思いからスタートし、そのために予想や仮説を立て、検証計画を立案して解決に取り組むという理科研究の流れをふまえ、科学的・論理的にまとめられた作品が多く見られました。これまでの自由研究や授業などでの問題解決的な学習の実践により、児童生徒に自ら学ぶ力が身に付いてきているように思います。今後さらに質の高い研究にするためには、うまくいかなかったところ、予想や仮説で矛盾のあるところを修正して検証に取り組んだり、分かったことと分からなかったことをきちんと整理して追究を重ねたりすることで課題解決が深まっていくと思います。これからも不思議に思ったことや疑問に思ったことに積極的に関わり理科の楽しさを味わってほしいと思います。作品の制作にご協力いただきました保護者の皆様、各学校の先生方に深く感謝いたします。



(文責 理科教育指導員 尾留川 昭)